

市民 ニュース

活動か・ボランティア



2006年 11月号
平成18年10月25日発行
通巻95号

MIE NON-PROFIT ORGANIZATION & VOLUNTEER NEWS

◆発行◆

514-0009
津市羽所町700番地
アスト津3階
みえ市民活動ボランティアセンター
Tel.059-222-5981
Fax.059-222-5971
E-mail seiknpo@pref.mie.jp
NPO室のホームページ
<http://www1.mienpo.net/npot>
三重県のホームページ
<http://www.pref.mie.jp>

市民活動・ボランティアニュースは
こちらにあります!

【地域の市民活動センター等】

●津市●みえ市民活動ボランティアセンター／津市市民活動センター／オールウェイズ(津センターパレス1階)／津中央郵便局ボランティアコーナー／(有)デザインオフィス萩野 ●桑名市●特定非営利活動法人みえきた市民活動センター ●四日市市●四日市市民活動センター／寺子屋プロジェクト ●鈴鹿市●市民活動情報ネットワークすずかのぶどう ●松阪市●三重中京大学／松阪市市民活動センター／松阪まちづくりセンター『まちの駅松阪「寸庵」』 ●伊勢市●特定非営利活動法人伊勢志摩NPOネットワークの会／伊勢市民活動センター ●鳥羽市●鳥羽NPOネットワークセンター・結 ●名張市●名張市立図書館／名張青年会議所／皇学館大学名張キャンパス／名張市総合福祉センター／エコリゾート赤目の森／名張市市民活動センター／くらしの情報センター同夢 ●伊賀市●ウィリアム テルズ・アップル まちづくりセンター／伊賀市中央公民館／伊賀市立図書館／上野青年会議所／伊賀市市民活動支援センター ●明和町●明和町市民活動サポートセンター ●南伊勢町●南勢町市民活動室連絡協議会

【地域の社会福祉協議会】県内の市町村社会福祉協議会

【金融機関】百五銀行各店／三重銀行各店／東海労働金庫各店／第三銀行各店

【行政機関等】三重県庁県民ホール／三重県地域機関(各県民センター)(桑名、四日市、鈴鹿、津、久居、松阪、南勢志摩、伊賀、紀北、紀南)／三重県民サービスセンター(情報公開窓口)／三重県総合医療センター／三重県立一志病院／三重県立志摩病院／三重県立こころの医療センター／斎宮歴史博物館／三重県立博物館／三重県立図書館／三重県生涯学習センター／三重県男女共同参画センター『フレンドみえ』／三重県人権センター／三重県身体障害者総合福祉センター／三重県環境学習情報センター／各市町役場

「事業報告書からみる三重県のNPO法人」について 三重県生活部NPO室

NPO室では、昨年度に引き続き県内NPO法人から提出された2005年分の事業報告書(279法人)を分析した「事業報告書からみる三重県のNPO法人」を作成しました。県内NPO法人の地域別数、活動分野、収入・支出構造や資産・負債等、行政からの事業受託状況などの50数項目の統計数値をまとめています。また、主要な項目については福祉(介護・支援)事業を行う法人と、それ以外の法人に分けて分析し、活動分野による違いがわかるように記述しています。

おもな統計結果は、つぎのとおりです。

- 三重県は全国都道府県で第8位。(人口百万人あたりのNPO法人認証数)
- 福祉(介護・支援)事業を行う法人の平均年収は3,480万円、それ以外の分野の法人の平均年収は575万円で、その差は約6倍。
- 年収が500万円未満の法人は、法人総数の58.0%。年収100万円未満の法人は、法人総数の30.5%。
- 収入について、法人総数の4.7%は寄附金を受けていない。

なお、この統計書についてはNPO室のホームページに掲載していますので、是非ご覧ください。

<http://www1.mienpo.net/npot/>

つながる つなげる 19 県ボランティアセンター 北出真由美 コーディネーター

今回はVco(ボランティアコーディネーター)養成講座の話はお休みにして、以前も、この場で触れてきていた団塊の世代の方々に向けて、市民活動・ボランティア活動を勧めていくお話をしたいと思います。

三重県社会福祉協議会では、今後、定年退職を迎えるの方々に向けて、写真のようなパンフレットを作成しているのですが、このパンフレットを使いつつ、県内で実際に定年退職を迎えるの方々、また迎えた方々と直接お話する機会を作っていきたいと思っています。

さて、今このニュースを手にとってくださいているあなた。もう活動を始めてみえる方であれば、ぜひぜひ、その経験をこうした皆さんの前で話してください。と依頼させていただくかもしれません。その時はご快諾をお願い致します!また、今から何か始めようかなあ、市民活動って、ボランティアって、ちょっと気になるなあ、というあなた。近々、いついつどこどこで、という案内が出る予定なので、是非アンテナ立てておいてください!

各地の市民活動センターの皆様とも、一緒に進めていきたいと思っていますので、そちらの情報もチェックしてみてくださいね。

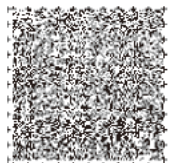


おねがい 市民活動・ボランティアにニュースに情報を提供される際、以下のことにご注意ください。
(1) 原稿はニュースにそのまま掲載できる状態にして、毎月10日までにお送りください。
(2) 送付はE-mailもしくはFaxで。その際、「市民活動・ボランティアニュースへの掲載のお願い」と件名を明記してください。

Fax.059-222-5971 E-mail seiknpo@pref.mie.jp

SPコード

右にある図形は「SPコード」と呼ばれる二次元コードです。視覚に障害を持つ方が「スピーチオ」と呼ばれる専用の読取機を使用することで、ここに記録されている情報を音声で聞くことができます。



情報をお寄せください。市民がつくる市民活動の情報です。
ホームページ版、朗読テープ版もあります。お気軽にお問い合わせください。

はじめ の 一歩

これから市民活動・ボランティア活動を始めたという方、始めたばかりという方の疑問などにお答えします。

まずはインターネットで市民活動・ボランティア団体巡り!

10月号で育児休暇宣言をした森下に代わり、この欄を担当することになりましたNPO室の堀木です。いったいどうすれば、どこでどのような市民活動やボランティアが行われているかを知ることができると、疑問に思われたことはありませんか?

そんなときは、ぜひお近くの市民活動センターや社会福祉協議会のボランティアセンターを訪ねてみてください。

しかし、今はインターネットがかなり普及していますので、ホームページやブログを持っているところなら検索エンジンとして有名なグーグル(<http://www.google.co.jp/>)やヤフー(<http://www.yahoo.co.jp/>)などを使って、パソコンでインターネットから情報を集めることができます。

どんな活動を行っている団体があるのか、いろんなキーワードを入れて検索してみませんか?キーワードは団体の名前でもかまいませんし、まちづくり、リサイクルなどの活動や地名などを入力すればOKです。複数のキーワードの間には空白をいれて検索してみましょう。

また、みえ市民活動ボランティアセンターのホームページ(<http://www.mienpo.net/center/>)をのぞいてみてください。現在1200余りの団体の情報が載っています。

いかがでしょう、お探しの情報は見つかりましたか。

三重県生活部NPO室 堀木俊哉

みなさんへのお知らせ

特定非営利活動法人認証申請団体と成立団体のお知らせ

特定非営利活動法人(NPO法人)申請は7団体ありました。引き続き、認証申請を受け付けています。

申請のあった団体と成立した法人を紹介します。なお、関係書類は三重県生活部NPO室及び各県民センターに備え置いてあります。

●認証申請団体

(1)名称(2)代表者氏名(3)法人事務所の所在地

【1】(1)太陽光発電所E-ライフネット(2)末松則子(3)四日市市 鶯の森2丁目11番3号/【2】(1)かもめ(2)中村和人(3)南伊勢町村山1131番地2/【3】(1)やさそ伊坂・山村ダム公園化推進協議会(2)藤田増幸(3)四日市市伊坂町797番地/【4】(1)植える美ing(2)細江美沙(3)玉城町矢野895番地/【5】(1)地産地消ネットワークみえ(2)石田正昭(3)津市久居明神町2501番地1財団法人三重県農林水産支援センター内/【6】(1)スポーツクラブどんぐり(2)嶋地 健(3)伊賀市荒木野乃浦893番地の1/【7】(1)みちおしえの会(2)藤井 隆(3)津市大字半田3250番地57

(平成18年9月15日~平成18年10月14日申請分)

●成立した特定非営利活動法人(登記年月日)

ふるさと企画舎(平成18年7月10日)/健康・福祉・環境日本一をめざす市民会議(平成18年9月7日)/ケアらいふ(平成18年9月15日)/在宅介護サービスもも・サプリ(平成18年10月5日)

(平成18年9月15日~平成18年10月14日届出分)

イベントスケジュール

環境市民活動助成セミナー

～地域社会に価値を創造する助成へ～

●とき/11月5日(日)開場13:00 13:30~17:00

●ところ/名古屋都市センター11階大研修室(名古屋市金山駅南口)

●参加費/一般1000円、企業・行政関係者2000円

●内容/市民団体と助成機関の出会いの場。相互理解とコミュニケーションを形成。当日はパネルディスカッション、助成申請書の書き方講座のほか、助成機関担当者が助成制度のねらい・申請時のポイントをフリップディスカスでPR!

【パネル展】

●とき/10月24日(火)~11月5日(日)10:00~17:00

●ところ/名古屋都市センター11階展示スペース

●内容/「私たちは環境・地域で活動をしています・助成機関・NPOパネル展」助成制度と助成を受けた市民団体の活動紹介。多数助成機関の助成、応募要項、パンフレットもあります。

【懇親会(飲食付)】17:15~18:45 参加費/3000円

市民団体と助成機関、団体同士の交流、個別質問、名刺交換。

●申込方法/電話、E-mail、Fax、郵送で受付。

●申込・問い合わせ先/460-0014 名古屋市中区富士見町

9-16 有信ビル2階 NPO法人地域の未来・支援センター
Tel.052-331-6141 Fax.052-339-5651 E-mail
info@c-mirai.org ホームページ <http://www.c-mirai.org>

●主催/NPO法人地域の未来・支援センター、環境省中部環境
パートナーシップオフィス

地域難病相談会 熊野会場

●とき/11月5日(日)受付13:00 13:30~15:00

●ところ/熊野市保健福祉センター2階 保健指導室・母子保育室、第4会議室(熊野市井戸町1150) ●参加費/無料

●内容/対象は一般、難病患者及び家族、保健福祉関係者です。相談内容はもやもや病、脊髄小脳変性症、リウマチ・膠原病、1型糖尿病、小児心臓病、就労相談、難病生活相談です。

●問い合わせ先/津市桜橋3丁目446-34 三重県難病相談支援センター Tel.059-223-5035

Fax.059-223-5064

男女共同参画フォーラム

～みえの男女(ひと)2006～

●とき/11月10・11日(金・土)

●ところ/三重県男女共同参画センター「フレンテみえ」

●参加費/無料・要申込

●内容/【10日】全体会「明日のみえの共同参画～三重県男女共同参画基本計画改定のための県民の意見を聴く会～」とワークショップ。【11日】オープニング「山崎浩子さんを迎えて」、「男女がいきいきと働いている企業」三重県知事表彰式、講演会「男女共同参画とまちづくり」、鼎談「みんなの目で 新しいまちの芽を!」とワークショップ。ワークショップの内容など詳細はお問い合わせを。

●募集人数/ワークショップはそれぞれ定員があります。先着順。

●応募締切/【託児】10月28日(土)(有料、0歳から就学前一人につき1000円、定員20名程度、先着順)【弁当】11月3日(金・祝)(11日昼食のみ予約販売。お茶付700円)

●申込方法/参加申込書に必要事項を記入のうえ、持参、郵送、Fax、E-mailにて下記まで。

●申込・問い合わせ先/514-0061 津市一身田上津部田

1234 三重県男女共同参画センター「フレンテみえ」

Tel.059-233-1130 Fax.059-233-1135

E-mail frente@center-mie.or.jp

●主催/三重県、三重県男女共同参画センター

高虎ウォーキング

●とき/11月12日(日)9:00~12:15(小雨決行)

●ところ/2008年は藤堂高虎が伊賀上野城、安濃津

城へ入府してから400年となる記念すべき年です。高虎以後、11代の藤堂藩主がこれを継承し、明治を迎えたことから津市内には藤堂藩ゆかりの史跡、寺院などが多くあり、今回はこれらの史跡を訪ねます。コースは津城跡～津観音寺～塔世橋～四天王寺～監物銀杏～殉教記念碑～津城跡です。

- 募集人数/50人 ●応募締切/11月5日(日)
- 申込方法/住所、氏名、年齢、電話番号を記入しハガキで申込み。
- 申込・問い合わせ先/514-0112 津市一身田中野556-1ときめき高虎会(代表:村田修) Tel.&Fax.059-232-2689

浜田裕介アコースティック・ライブ
『戦わざる者達の唄』 & 映画上映会
「イノセント・ボイスー12歳の戦場ー」

- とき/11月12日(日)映画上映13:00～、ライブ15:30～
- ※映画上映は以下の時間も開催。10日(金)13:00・15:30・19:30、11日(土)10:00・13:00・19:30
- ところ/「シアター オアシス」特設ミニシアター(尾鷲市栄町)
- 参加費/映画+ライブ2500円、映画のみ1000円(各回限定30席)※ライブのみのチケットはありません。
- 内容/高知県四万十市在住のシンガー、浜田裕介のライブと、エルサルバドルの内戦に駆り出される12歳の少年たちを描いた「イノセント・ボイスー12歳の戦場ー」のコラボレーション。生きるために決断を下す少年の姿と、浜田裕介の歌う「Voices-新しき革命の唄-」が一つになる瞬間を体感して。
- 共催・問い合わせ先/ロマン座シネマ倶楽部(事務局:東川) Tel.090-1625-4813
- 主催/浜田裕介アコースティック・ライブ『戦わざる者達の唄』&「イノセント・ボイスー12歳の戦場ー」パートナーズ



浜田裕介さん

伊賀の国づくりフォーラム2006

- とき/11月18日(土)13:30～17:00
- ところ/県伊賀庁舎7階大会議室(伊賀市四十九町2802)
- 参加費/無料(申込不要)
- 内容/これからの伊賀の地域づくりを進めるために、住民、企業、団体、行政がどういった役割を果たすことが必要なのか、また、その役割に応じた活動をどのように展開するかということについて、意見交換を行い模索します。地域づくりの伝道師として活動するフリージャーナリストの亀地宏さんの講演、伊賀の地域づくり活動者によるパネルディスカッション、参加者交流会を行います。なお、参加者交流会では伊賀の旬の味覚を楽しんでいただけるよう準備していますので、ぜひご参加いただき、お楽しみください。
- 問い合わせ先/三重県伊賀県民センター地域・防災室 Tel.0595-24-8003 Fax.0595-24-8010
- 主催/伊賀フォーラム2010

熊野古道月間2006イベント
熊野古道・道中日記講演会

- とき/11月18日(土)19:00～21:00
- ところ/囀り裏のある石工の古民家(紀北町海山区便ノ山)
- 参加費/300円(史料集、囀り裏で焼いたあまごの塩焼き付)
- 内容/江戸時代に旅人が記した記録や道中日記の中から馬越峠と尾鷲街中について記された史料集『道中日記からみた馬越峠・尾鷲～170点の旅の記録から～』を発行した塚本明さん(三重大学人文学部教授)が私達を江戸時代の馬越峠へと引き込んでく

れることでしょう。囀り裏の火をみつめながら、熊野古道馬越峠を歩いた昔の旅人に想いを馳せてみませんか。

- 募集人数/30人
- 申込・問い合わせ先/NPO法人ふるさと企画舎(担当:田上) Tel.080-3069-5727

【みっくみえからのお知らせ】
三重県子ども虐待防止啓発月間協力事業
いい育児の日
24時間 子育てほっとダイヤル
～虐待予防は子育て不登の解消から!～

- とき/11月18日(土)15:00～19日(日)15:00
- 内容/「親なんだから…」「二人目なんだから…」という言葉にプレッシャーを感じている方、「子どもが言うことをきいてくれない…」と落ち込んでいる方はいませんか?「子どもとどうやって付き合えばいいのかわからない」「イライラして子どもに当たってしまう」「子どもをたたいてしまった」など、あなたが抱える悩みを私たちにお話してくださいませんか。助産師、心理カウンセラー、小児科医師、看護師、保健師、管理栄養士、保育士が、2名ずつ交代でお電話をお待ちしています。

独立行政法人福祉医療機構助成事業
子どもの虐待防止講演会
～みんなで考えよう!
子どもたちの未来を～



- とき/12月3日(日)講演14:00～15:30、意見交換15:30～16:30
- ところ/じばさん三重 4階視聴覚室(四日市市安島1丁目3番18号、近鉄四日市駅から徒歩5分)
- 参加費/無料
- 内容/2000年5月に成立した児童虐待防止法が2004年4月に改正され、虐待を受けている子どもに気づいた時はもちろん、「虐待を受けたのでは?」と疑われる場合も通告することが義務付けられました。全国でも民間団体がネットワークを作り、虐待の防止に取り組んでいます。NPO法人CAPNAの常任理事であり、「防げなかった死ー虐待データブック2001(2000年キャプナ出版)」の編集もされた安藤明夫さんの講演『防げなかった死ー家庭のSOSを受け止めて～』を聞き、子どもたちの「いのち・安全・人権」が脅かされることのない社会の構築のために何をすべきか考えましょう。
- 募集人数/90人 ●応募締切/11月15日(水)
- 申込方法/名前、電話番号、一般または関係者(保健、福祉、医療、教育等、子どもの虐待に関わる職種)の別、所属(関係者のみ)、子ども虐待へのご意見、ご質問等(あれば)を記入し、ハガキかFax、E-mailで下記へ。
- 主催/日本子どもの虐待防止民間ネットワーク
- 共催/NPO法人MCサポートセンターみっくみえ

- 申込・問い合わせ先(両イベント共)/511-0851 桑名市西別所302番地 特定非営利活動法人MCサポートセンターみっくみえ Tel.0594-21-4935 Fax.0594-22-9835 E-mail fcmatsu@lily.ocn.ne.jp

秋も保育もまっ盛り!楽しい保育を追いかけよう

- とき/11月18日(土)開場13:30 14:00～16:00
- ところ/高田短期大学体育館
- 参加費/学生500円、一般1000円
- 内容/浦中こういちを中心に歌遊びバンドとして活動を行うたんこぶポコタンズが講師。保育の現場から生まれた大好評の歌遊び、ふれあい遊び、パネルシアターなど盛りだくさんの2時間です。津駅

から出る送迎バスは事前申込みが必要ですので問い合わせを。
 ●持ち物/上履き ●募集人数/100人程度
 ●申込方法/「梶宛 11月18日」と氏名、連絡先を明記しFaxまたはE-mailで下記まで。
 ●申込・問い合わせ先/梶 Tel.090-2922-4263
 Fax.059-232-6317 E-mail ikubun@takada-jc.ac.jp
 ●主催/高田短期大学育児文化研究センター



白井のリ子講演会 『典子は、今』あれから25年〜

●とき/11月18日(土)10:30~12:00

●ところ/尾鷲市民文化会館せぎやまホール
 ●参加費/無料(整理券配布・来場希望者は下記まで連絡を)
 ●内容/サリドマイドによる薬害の影響で、両腕に障害を持って生まれた白井のリ子さん。昭和56年に公開されたドキュメンタリー映画「典子は、今」の主人公です。あれから25年、結婚、育児を経た彼女の今を語っていただきます。
 ●申込・問い合わせ先/尾鷲市社会福祉協議会(担当:地域福祉係・仲) Tel.0597-22-3246 Fax.0597-22-3402



第31回 あしながPウォーク10 津コース

●とき/11月19日(日)受付9:30 スタート10:00
 (雨天決行) ●ところ/津偕楽公園SL前

●参加費/大人500円、中学・高校生300円、小学生以下100円 ※事前申込不要
 ●内容/あしなが育英会から奨学金を借りている学生たちが企画しているイベントです。約10キロを歩きながら国内外にいる遺児のことや周りにおける優しさについて考えるウォーキングイベントです。子どもからお年よりまで楽しめます。
 ●申込・問い合わせ先/八代
 Tel.090-6806-3234



「心の教育」三重講演会

親が変われば子供が変わる 何歳からでもできる育て直し
 ●とき/11月23日(祝・木)受付13:00 13:30~15:00
 ●ところ/男女共同参画センター多目的ホール(津市一身田上津部田1234) ●参加費/1000円(当日券有)
 ●内容/心で何かを想うとエネルギーが循環します。感謝や人を尊敬するような想いをもつとプラスのエネルギーが流れ、怒りや愚痴の想いをもつとマイナスのエネルギーが流れます。子供は母親から流れてくる“想い(エネルギー)”をもとにして成長していきます…。講師、北村弥枝の実体験に基づいた話です。質疑応答のコーナーもあります。無料託児を利用の場合は事前に申込みを。
 ●申込・問い合わせ先/杉浦 Tel.&Fax.059-345-6411
 携帯Tel.080-5150-7877
 ●主催/教育研究会未来



ひろがれ友情・ひろがれ仲間 第8回 知的障害者と市民のつどい

●とき/11月26日(日)9:45~14:00

(小雨決行・雨天中止)
 ●ところ/津お城西公園(市役所北側の公園)
 ●内容/知的ハンディキャップを持った人の事を、多くの市民の皆さんに知っていただく、津市内のいろんなグループが力を合わせて、楽しいイベントを開催します。知的ハンディキャップを持っている人たちも、もとよりみんなの仲間です。そんな思いで『ひろがれ友情・ひろがれ仲間』というタイトルを付けました。お祭りゾーンで

は、いろいろなグループが太鼓や踊りなどを披露し、イベントをにぎやかに楽しくしてくれます。また、理解のゾーンと銘打ち、知的ハンディキャップについて市民の皆さんの理解を深めていただこうと考えています。体験ゾーンでは、焼きそばや綿菓子、いろんなグッズの販売の店などが店を出し楽しんでいただけます。



昨年の様子。

●問い合わせ先/津市手をつなぐ親の会連合会
 Tel.059-225-3930

●主催/津市手をつなぐ親の会連合会、(社団)日本自閉症協会三重県支部津ブロック



いのちの声を聴く自己尊重トレーニング 「自分をほめてみませんか」

●とき・ところ/12月9日(土)14:00~17:00(ワークショップ) 四日市市文化会館第4ホール

12月16日(土)13:00~15:00(事後の話し合い) 子育て広場:ドロップin事務所
 ●内容/自分の存在を大切に思うことは、生きていく力につながります。講師の(特)自己尊重プラクティス協会代表理事・手塚千砂子さんと一緒に自己尊重ワークショップをとおして「いのち」への感謝を実感してみましょ。対象は中学生~25歳ごろまで。
 ●問い合わせ先/子育て広場:ドロップin
 Tel.&Fax.059-363-3728
 E-mail smile_dropin@yahoo.co.jp
 ホームページ http://www.geocities.jp/smile_dropin

ネットワークのよびかけ

DV(ドメスティック・バイオレンス)被害者支援の団体の皆さん 活動に必要な支援はありますか?

三重県では、DV被害者支援に取り組む団体に活動実施に必要な支援内容や新たなアイデアを具体化するために必要な支援をお聞きし、その要望に応えられる企業や県民の皆さんとを繋ぎ、団体への橋渡しをしたいと考えています。「生活資金の貸し付けの原資がほしい」「ステップハウス設置のための住居が必要」「DV防止啓発団体メンバー募集」「被害者に対する相談のための場所・仲間を募りたい」など、皆さんが必要としている支援内容を教えてください。
 ●応募締切/11月17日(金)
 ●応募方法/所定の様式に記入し、県子ども家庭室へ提出。
 ●申込・問い合わせ先/514-8570 津市広明町13 三重県子ども家庭室児童福祉グループ Tel.059-224-2883
 Fax.059-224-2270 E-mail kodomok@pref.mie.jp



いなば園がしのき寮 ボランティア募集

空いている時間に知的障害者の方のお手伝いをしてみませんか?難しいことはありません。話し相手、おやつ作り、外出など、あなたのできることをお手伝いください。希望内容、曜日、時間などをお知らせください。事前の見学もOKです。
 ●とき/木・土・日曜日(その他の曜日もOK)9:30~15:00
 ●問い合わせ先/津市稲葉町3989 いなば園がしのき寮(担当:上山、林、田辺) Tel.059-252-1780(代)
 E-mail kikaku-4@inabaen.com
 ホームページ <http://www.inabaen.com>

助成金 ニュース

JT 青少年育成に関するNPO助成事業

- 受付締切/11月20日(月)消印有効
- 助成の対象となる団体/非営利法人で、平成18年9月30日時点で法人として1年以上の活動実績を有する法人。
- 助成の対象となる活動/非営利法人が日本国内において、地域社会の核となつて実施する青少年の健全な育成につながる事業。
例)「学校林の保全事業」「青少年の自然体験活動」「青少年の異世代交流事業」「青少年が参加するまちづくり事業」「障害児支援事業」「不登校・ひきこもり児童支援事業」「里山の環境保全活動」「青少年と地域の方々が一緒に取り組む環境美化活動」「青少年と地域の方々が一緒に取り組む植林活動」等。
- 対象事業の期間/平成19年4月1日～平成20年3月31日
- 助成の額/年額上限150万円。40件程度。
- 応募方法/「応募書類郵送希望」と明記の上、団体名・代表者名・郵便番号・住所・電話番号を記載し、切手(200円分)を貼付した返信用封筒(角型2号)を同封して、応募締切日の2週間前までに事務局宛に郵送するか、ホームページからダウンロード。
- 問い合わせ先/日本たばこ産業株式会社 CSR推進部 社会貢献室
105-8422 東京都港区虎ノ門2-2-1JTビル
Tel.03-5572-4290 Fax.03-5572-1443
ホームページ <http://www.jti.co.jp/JTI/contribution/Welcom.html>

トヨタ財団地域社会プログラム

- 受付締切/11月20日(月)消印有効
- 助成の対象となる活動/【活動助成】地域社会の再構築と活性化を目指し、地域に誇りをもつ人々が主体となった実践的なプロジェクトへの助成。1件あたり上限200万円。
【成果普及助成】地域に根ざした活動が他の地域における活動とネットワークを形成し連携することで、より大きな効果を期待する。地域間の共生のネットワーク構築を目的とした以下の2カテゴリーへの助成。1件あたりの助成金の上限は(A)100万円、(B)400万円。
「(A)活動記録の出版」…地域社会の再構築と活性化を目指し、地域に誇りをもつ人々が主体となった、持続的な実践プロジェクトへの助成。
「(B)広域ネットワーク」…地域社会の再構築と活性化を目指した活動の経験からたくわえられたものを地域間で共有し、具体的な問題解決に資する、協働と連携を支える広域的な活動への助成。
- 【特定課題】
「離島助成」…地域社会の崩壊が、より深刻な問題となって現出していると考えられる、北海道、本州、四国、九州以外の「離島」における実践的な活動への助成。1件あたりの助成金の上限200万円。
「ユース助成」…地域社会の再構築において欠かせないと思われる、若者の参加を促進することを目的に、高校生が主体となって実践するグループによる活動への助成。1件あたりの助成金の上限50万円。
- 対象事業の期間/平成19年4月1日～平成20年3月31日
- 応募方法/応募用紙は、希望する助成を明記し、送料分切手(1部140円、2～3部390円)を同封し、下記まで11月11日(金)までに申込み、ホームページよりダウンロード。申請は必ず郵便(簡易書留)にて送付。
- 問い合わせ先/(財)トヨタ財団地域社会プログラム係 163-0437
東京都新宿区西新宿2-1-1 新宿三井ビル37階 私書箱236号
Tel.03-3344-1701
ホームページ <http://www.toyotafound.or.jp/>

数納(かすのう)賞

- 受付締切/11月30日(木)
- 賞の対象/対象児童の健全育成に関し、児童福祉施設(児童館、児童養護施設等)、地域組織(母親クラブ、子ども会等)、家庭相談員、里親等の活動の具体的実践報告。
- 応募方法/A4版原稿用紙縦・横書き400字詰、30枚程度を厳守。黒のボールペンまたは黒インクを使用。ワープロ使用の場合はA4版横書き(1ページ32字×25行)。原稿と別に報告の概要(1200字程度)を提出。報告原稿には表紙(報告題名、住所、氏名(フリガナ)、年齢、職業、連絡先、電話番号)を別途添付。

- 受賞/数納賞1編(賞状と賞金30万円)、佳作4編(賞状と賞金各5万円)。なお、佳作に準ずると評価された報告は選外ながら特に奨励賞(賞状と賞金3万円)を設けます。
- 選考基準/活動の先駆性、普及性、社会的効果性、地域(地域住民、各施設、行政など)との連携状況、自己の活動への客観的検証、文章構成における論理性・実践記録としての価値。
- 応募方法/ワープロソフト使用の場合はメール添付による提出も可。
- 申込・問い合わせ先/(財)児童健全育成推進財団
150-0001 東京都渋谷区神宮前5-53-1 こどもの城10階
Tel.03-3486-5141 E-mail fpsgc@jidoukan.or.jp

第9回日本水大賞

- 受付締切/11月30日(木)郵送の場合当日消印有効
- 対象となる団体/(1)学校(2)企業(3)団体(NPOや公益法人など)(4)個人(5)行政
- 対象となる活動/水環境系の健全化に寄与すると考えられる活動で、以下の分野における諸活動(研究、技術開発を含む)。(1)水環境(2)水資源(3)水文化(4)水防災)
- 応募方法/応募用紙は切手(140円)を貼り、送付先を記入した返信用封筒(A4版の入るもの)を同封して郵送するか、ホームページからダウンロードして入手。応募方法は送付または持参。
- 賞の内容/大賞「グランプリ」(賞状と副賞200万円)のほか、各大臣賞、市民活動賞など。
- 問い合わせ先/日本水大賞委員会事務局:(社)日本河川協会
102-0083 東京都千代田区麹町2-6-5 麹町E.C.Kビル3階(担当:宝池、佐藤 平日9:15～17:30)
Tel.03-3238-9771 Fax.03-3288-2426
E-mail taisyo@japanriver.or.jp
ホームページ <http://www.japanriver.or.jp/taisyo/index.htm>
※高等学校または同等の学校に在籍している生徒を対象とした日本ストックホルム青少年水大賞もあります。詳細はホームページを参照。

日本郵政公社平成19年度年賀寄附金配分

- 受付締切/11月30日(木)
- 助成の対象となる団体/社会福祉法人、更生保護法人、社団法人、財団法人、特定非営利活動法人(NPO法人) ※最新決算時において法人登記後1年以上を経過し、1年間の年度決算書を確定している必要があります。
- 助成の対象となる活動/(1)社会福祉の増進を目的とする事業
(2)風水害、震災等非常災害による被災者の救助又はこれらの災害の予防を行う事業
(3)がん、結核、小児まひその他特殊な疾病の学術的研究、治療又は予防を行う事業
(4)原子爆弾の被爆者に対する治療その他の援助を行う事業
(5)交通事故の発生若しくは水難に際しての人命の応急的な救助又は交通事故の発生若しくは水難の防止を行う事業
(6)文化財の保護を行う事業
(7)青少年の健全な育成のための社会教育を行う事業
(8)健康の保持増進を図るためにするスポーツの振興のための事業
(9)開発途上にある海外の地域からの留学生又は研修生の援護を行う事業
(10)地球環境の保全(本邦と本邦以外の地域にまたがって広範かつ大規模に生ずる環境の変化に係る環境の保全をいう。)を図るために行う事業
なお、配分対象は「活動」、「施設」、「機器」、「車両」の4種類に分かれており、更に「活動」は一般プログラムとチャレンジプログラムに分かれています。
- 対象事業の期間/平成19年5日～平成20年3月
- 助成の額/1件あたり上限500万円。「活動」のチャレンジプログラムのみ上限50万円。
- 応募方法/申請書類等はホームページからダウンロードするか、最寄の郵便局の窓口へ。
- 問い合わせ先/日本郵政公社 郵便事業総本部 年賀寄附金事務局
100-8798 東京都千代田区霞が関1丁目3番2号 Tel.03-3504-4401(土日祝日を除く10:00～12:00・13:00～17:00)
ホームページ <http://www.post.japanpost.jp/kifu/>

助成財団センターは、助成、表彰、奨学などを行う財団法人・その他の法人などの情報を収集し、活動内容を広く社会に発信していくことを主な目的としています。その情報は冊子で刊行されているほか、ホームページやアクセスナビサービスでも閲覧できます。(財)助成財団センター Tel.03-3350-1857 Fax.03-3350-1858
ホームページ <http://www.jfc.or.jp/>

今月特集

NPOが資源を共有し、社会に提言していく仕組み

四日市NPOセクター会議

四日市市にあるさまざまな分野の8つのNPO法人が中心となり、NPOが資源を共有し、NPOの力を高め、セクターとしての影響力を対外的に示すための共同体として、今年3月設立されました。現在約30の市民活動団体が会員となっています。

平成18年度は、四日市市行政との意見交換会の開催、四日市市議会議員と連携した「四日市市民協働研究会」の運営、団塊の世代を中心とした「四日市シニアまちづくり人材バンク事業」（内閣府支援事業）の実施、市民のためのNPO体験研修機会の提供などに取り組んでいます。

四日市NPOセクター会議

〒512-8512 三重県四日市市萱生町1200 四日市大学 9401
NPO法人市民社会研究所内
TEL 059-363-3539、FAX 059-355-2640
E-mail ssk21ww@yahoo.co.jp
URL <http://www.geocities.jp/yokkaichinpo/>

議員との連携 ”四日市市民協働研究会”

四日市市では、昨年、全国初の議員立法による市民自治基本条例が制定されました。その理念を具体化するため、四日市NPOセクター会議と四日市市議会21会（当選回数1～2回の議員による超党派の会）が連携し、市民活動を促進するためのしくみづくりを

目指した「四日市市民協働研究会」が、本年7月に立ち上がりました。7月から9月にかけて6回の研究会を行い、その成果を「四日市市の市民協働を促進させるためのしくみづくりの根拠条例制定に向けた提言書」にまとめ、9月20日市長に提出しました。



9月20日、四日市市民協働研究会の提言書が四日市市長に手渡されました。

中間支援 中間支援組織担当者ネットワーク交流会・協働勉強会

10月5日の中間支援組織担当者ネットワーク交流会・協働勉強会は、9団体12名が参加しました。

今回は、NPOから“協働事業提案”を行った事業を事例に、協働と委託との違い、契約の結び方、注意するポイント、継続と終わりのカタチについて、現場の状況を教えていただきました。「協定や契約を交わしても、協働がうまくいくかどうか結局は“人”で決まる」という悲観論も出る中、それぞれの協働の現場での経験談も交えつつ、熱い議論となりました。実際の事例から学ぶ場なので、“協働”ということに関心をお持ちの方は、お気軽にご参加ください。



◇交流会
日時：11月7日（火）午後1時30分～4時30分
◇協働勉強会
日時：12月6日（水）午後1時30分～4時30分
※どちらも場所は、みえ市民活動ボランティアセンター

地域情報 ～鈴鹿川流域の環境ネットワーク～ やすらぎくんネット

平成12年度からの三重県の生活創造圏事業が終了し、鈴鹿・亀山生活創造圏ビジョン推進会議（やすらぎくん）の主旨や事業を受け継ぐ後継の市民団体として、“やすらぎくんネット”が平成18年6月に立ち上がりました。鈴鹿川流域の環境に関する6年にわたる活動を、実行委員会形式で引き継ぎ、事務局を“NPO法人市民ネットワークすずかのぶどう”が担っています。今年度のメイン事業の1つ「夏の鈴鹿川体験2006」は参加者700名で盛況のうちに終わりました。イベントごとに実行委員会形式でスタッフを募集しますので、お気軽にお問い合わせください。

◆“やすらぎくんネット”問い合わせ先
〒510-0241 三重県鈴鹿市白子駅前18-15
NPO法人市民ネットワーク すずかのぶどう
TEL/FAX 059-387-0767 E-mail budou@mecha.ne.jp
URL <http://www.budou.gr.jp>

▶▶▶▶▶ がんばれネットワーク ▶▶▶▶▶

三重県内の市民活動団体の人をリレーで紹介していきます。但し、紹介するに当たってはルールがあります。1・同じ地域で無いこと。2・同じ活動分野で無いこと。さてどんな人がどんなふうに、つながっているのでしょうか。趣味の絵手紙をいかしてデイサービスやホスピスなどでボランティアをしている林 沙苗さん。彼女からバトンが渡ったのは自殺防止の相談電話「三重いのちの電話協会」でボランティアをしている野殿照子さんです。

一人で悩まないで『いのちの電話』

……『いのちの電話』の活動内容は？

『いのちの電話』は一人で悩んだり、苦しんだり、誰にも話せない悩みを誰かに聴いてもらうことによって少し気持ちが整理できたり、落ち着いたりしますよね。

そういう方のお話を電話を通して聴かせていただく活動です。

……野殿さんがいのちの電話を知ったのは？

21年ほど前、夫の転勤で名古屋に引っ越した時です。何かボランティアをしたいなと思っていたところ、『いのちの電話』を設立する準備中だという話を聞いて、参加しました。カウンセリングに関心があったので、参加できそうと思いましたが、現実はそんなに単純なものではないですね。

……ボランティア活動には抵抗が無かったのですか。

名古屋に行く前は津市で朗読のボランティアをしていました。ボランティア活動はいろいろな人と関わることができるのが、凄くいいと思います。ボランティアの仲間は地域や年齢、職場など限られた仲間ではなく、それぞれがいろいろなことをしている人の集まりなので、本当に面白いですよ。

……三重での立ち上げにも参加されましたか？

三重に戻ってきた時に、こちらにはまだ『いのちの電話』が無かったので「三重にも『いのちの電話』があるといいね」とカウンセリングの勉強をしている人たちに呼びかけ、5人ほど集まりました。その後、名古屋の『いのちの電話』で講師をされていた元あすなろ学園園長の清水将之先生に協力のお願ひに行き、理事長を引き受けてくださいました。現在は元百五銀行頭取の川喜田貞久理事長に引き継がれています。この時、相談員を募ったら80名ぐらいの応募があり、1年ほど研修を行ってスタートできました。

……現在、相談員は何人いるのですか？

これまで認定されたのは113名で、実働は70名ぐらいです。現在、5期生の養成を行っています。活動は月に数回参加し、ローテーションを組んで回しています。

……相談員になるにはどうすればいいのですか？

『いのちの電話』の相談員は認定制度になっています。1年半あまりの期間、月3回ほど土曜日の午後で開催している研修を受けていただいて、レポート提出や面接を経て、臨床心理士の先生や、専

門家の『三重いのちの電話』訓練委員が認定を行います。

……応募される方の動機などは？

私のように社会と関わってみたいと思った方もいますし、自分自身の勉強の機会と捉えて参加する方もいます。研修は前期と後期に分かれています。両方通して約6万円ほど費用がかかりますから、そのお金を出してでも『いのちの電話』に関わりたいという方が集まってきてくださっています。

……研修期間中に辞める方はいませんか？

「向いてないようだから」と自ら辞められる方はいます。『いのちの電話』の相談員はかけてくださる方の話を「うん、うん」と聴かせていただくことなので、自分のことを話したくなる方はね…。そこを上手に自分の中で整理できるといいのですが、できないと難しいですね。

……研修は最初に受けるだけですか？

相談員向けに毎月、何らかの研修を行っています。相談を受けている時に「もっと良い言い方があったのでは？」などと思った時は研修時に話し合ったり、スーパーバイザーの指導を受けます。

……話し方なども研修で決められるのですか？

電話をかけてこられる方は元気の無い人が多いですから、こちらが明るく元気な声を出すと違和感が生まれてしまいます。そこを気をつけるぐらいですね。あとは声の大きさやスピードなどを相手のペースに合わせるくらい。ゆっくり話す人に対して、こちらがせっかちに話すと相手の方は話せなくなってしまいますから。

……相談員の年齢層は？

平均すると40歳代後半かな。男女比は圧倒的に女性が多いです。

……相談に対応している時間は？

毎日18時から23時の5時間を交代で受けています。

……終了が23時では、女性は出歩きにくいのでは？

出にくいという方もありますが、お勤めされている方などは遅い時間の方が入りやすいですね。相談時間を18時からにしたのは、公的な相談電話の対応時間が終わった後の時間帯をカバーしてきたいという前理事長の発想でした。24時間相談窓口を開放している施設もありますが、まだまだ少ないですからね。『いのちの電話』も基本姿勢は24時間窓口で、全国50センター中、27センターほどは24時間、相談を受けていますが、三重ではまだ難しいです。

……夜中に電話が来るのですか？

夜の方が重くて深刻な電話が多いですね。「目が覚めて、眠れなくて、寂しくて」とか、夜の方が気持ちが沈みますから、夜の電話相談は大事だと思います。自殺も明け方の6、7時頃が多いと統計的に出ていますから、夜の電話相談を行うことで、思いとどまってもらえればと思います。

……休日は？

ありません。365日、土日曜も年末年始も行っていきます。ただ、台風で警報が出た時はお休みさせていただいています。相談員の安全を守ることも大切ですから。

……運営資金は？

会員さんの寄附がほとんどです。正会員が一口1万円、賛助会員が3千円になります。このほか、フリーマーケットに参加したり、講演会やチャリティコンサートなどを開催して調達しています。行政などの支援は全く受けていませんが、毎年12月に厚生労働省の委託

三重いのちの電話協会

野殿照子 さんに



聞く

事業としてフリーダイヤルの『いのちの電話』を開催しています。今年も12月1日から7日までの1週間、行います。

……相談事で困ることはありませんか？

電話相談を行っているところならどこでも同じ様な悩みがあると思いますが、いたずらっぽいような電話には困ります。本当に困っている人がかけたい時に電話が繋がらないことになりまますから。それに、そういった電話ばかり聞いていると相談員のモチベーションが下がってきますからね(苦笑)。

ありのままを受け入れ、共感する

……相談内容は自殺だけではないのでしょうか？

職場の人間関係や家族の問題、病気、仕事が上手いかずに悩んでいるとか、内容はいろいろです。自殺にしても原因は一つだけでなく、複合的な要素がありますから。これらの悩みを人に話さずに自分の中で抱え込んでいると鬱などの病気になってしまうこともあります。

……せっかく電話をかけてきてくれても、対応次第で逆効果になることもあるのでは？

お互い、生身の人間同士が一对一で関わるわけですから、電話をかけてくださった方に葛藤を与えてしまったり、逆に相談員が葛藤を感じたりということもありますね。それを対処するために必要なのが研修です。相談員の基本は、まずお話を聴かせていただくことです。お説教や相談員の意見などは話しませんね。かけてくれた方はこれまでの生活の中で、そういうことがいっぱいあって、苦しんでいるわけですから。まず電話をかけてくださった方をありのまま受け入れ、自分の中で共感して聴くことが大事ですね。聴く姿勢というのは傾聴して共感するという所に帰るのではないかと思います。実際には難しいですね。

私たちは「死にたい」と言うのは「生きたい」という心の叫びだと思っ

……共感して聴くとは？

「それは大変でしたね」という風に気持ちを伝えていくということです。もちろん、言葉がよそよそしかったり、おざなりだったりすると相手の方に伝わります。顔が見えないからこそ、気をつけなければならないですね。

……実際に「死にたい」と言う方に対応したことはありますか？

今まさに、死ぬしかないという状態の方からの電話も時にはあります。そんな時はとにかく相手が落ち着くまでずっとおつきあいます。「死ぬしかない」と思いつつ、いのちの電話にかけてくださった。電話がかけられたということが凄く大事です。私たちは「死にたい」と言うのは「生きたい」という心の叫びだと思っ

ていますから、とにかく「よくお電話くださいましたね」と声を掛けます。電話をかけてもらえれば、心の中を100%占めていた死への思いからも、離れてもらえます。相手の方が電話を切る時も「また必ずお電話ください」と言って、次に繋げていきます。お話ししている内に「落ち着いてきましたから、今日は止めておきます」とおっしゃった方もありました。……そんな電話を受けた時は受けた側も緊張するでしょう？もう胸がバクバクですよ。どうしたらいいかって。でも、相手のペース

に巻き込まれてしまうと、同じように潰れてしまいますから、冷静に対応していきます。まず、「なぜ死にたいと思われるのでしょうか」「死にたくなるほど、苦しいことがあったのですか」と聴きます。この時に「実は…」と話始めてくれれば、少し落ち着いてくれますね。また、お話を聴きながら「せっかく電話が繋がったのだから、生きていて欲しい」という気持ちも伝えます。

……身近に話を聞いてくれる人はいないのでしょうか？

身近にいたとしても、同じ様な話を繰り返していると「いつまで同じ事、言っているの」とか、「そんなこと言ってもダメ」と諭されてくるのではないかと思いますよ。身内や友人、知人には話せないこともあるのだと思います。

……アドバイスなどはするのですか？

なかには「アドバイスだけじゃないのですか」と言う方もありますが、基本的にアドバイスはしません。でも、法律関係の相談窓口などいろいろな情報を提供することはあります。

……相手の立場や情報などはどうやって聴き出すのですか？

相手が話していただければ事情も聴きますが、こちらから聴き出すようなことはしません。話して下さる範囲で聴かせていただくという感じですね。相談員は精神医療分野の専門家ではありませんから、無理に聴き出したりすると大変なことになってしまうと思います。

……話を聞く内にもらい泣きするようなことはありませんか？

気持ちが巻き込まれてしまうのはあまり良くないのですが、もらい泣きすることはありますね。電話の前に座ったら相談員、離れたら日頃の自分と気持ちを切り替えています。話の内容によっては後で思い出したり、いつまでも耳に残っていることもありますね。

……電話をしてきて、相談員にクレームをつける人はいませんか？相談員の声の様子で「あなた若そうだから、私の悩みはわからないでしょうね」と言うこともありますね。でも、人の話を聞くのは年齢ではないと思います。その人の気持ちをきちんと受け止められるかどうか。感性を問われるということです。自分の価値観だけで判断するのではなく「この人はそんな風に考えて生きているのか。それは辛いだろうな」と受け止めることが大切ですね。

……相談して良かったと言う人もいますか？

最後に「ありがとう」と言っていたことは少ないですが、「聴いてもらえたから、今日はゆっくり休めます」とか「ちょっと気持ちがラクになりました」とか言って下さる人はありますし、その辺りに活動の意義を感じます。電話することで誰かを助けてあげるなんて大それたことは考えていませんが、たくさんの人の話を聴かせていただくことで、自分を振り返ることもできるし、社会と触れているという実感もありますね。ですから、自殺のニュースや情報を聞くと空しくなります。自殺者数はこの8年間で3万人を越えています。「誰かに相談できたら死ななくて良かったのでは？」とすごく思います。

『いのちの電話』

相談電話 Tel.059-221-2525(毎日18:00~23:00)

12月1日(金)0:00~7日(木)24:00
『自殺予防いのちの電話』フリーダイヤル開催
Tel.0120-738-556

野殿照子さんはこの人を紹介します。

鬼頭志朗さん

「Wood Land三重」代表世話人のほか、四日市市を中心にした自然環境ボランティアに積極的に関わって見えます。

転載を希望される場合は必ずNPO室に連絡してください。

三重いのちの電話のパンフレットです。